

長生きしたオンブバッタ

辻 雅博

私は、エンマコオロギを小学校2年生の時から現在まで10年間、毎年飼育している。2004年の飼育では、名古屋市天白区内で採集した個体が、最長、次年度の1月上旬まで生存した。それ以来、コオロギやバッタの寿命に興味を持つようになった。

2010年10月16日、オンブバッタのメス2個体(褐色型と緑色型)を、岡山県岡山市北区津島中の田んぼで採集し、以後室内で飼育した。飼育には18cmx14cmのプラスチックケースを用い、購入した花壇の土を深さ1cm敷き、その上に、バッタの休息場所のために紙コップを横向きに置いた。エサは、コマツナとダイコンの葉を与えた(図1)。



図1 オンブバッタ飼育のようす。

飼育開始から74日目の2010年12月29日、オンブバッタのメス2個体の内1個体(緑色型)が死んだ。その後、室内の最低温度と最高温度を測定した。1日の室内の最低温度は10℃~12℃、最高温度は14℃~16℃で一定していた。また、12月末から2月5日まで、1週間に一度程度、ダイコンの葉を与えた。飼育開始から112日目の2011年2月5日、残りの1個体(褐色型)が死んだ。死後、すぐに解剖し、橙色の卵巣があることを確認した(図2)。



図2 飼育開始から112日目に死んだ褐色個体の死後の卵巣のようす。

なお、飼育土中には、卵は、確認できなかった。おそらく、飼育環境が産卵に適していなかったため、産卵しなかったものと思われる。そのため、産卵に要するエネルギーを消費することなく、長く生き延びた可能性が高いと推測される。

今後は、さまざまな条件で幼虫から飼育し、オンブバッタの寿命を確かめてみたいと思う。

最後に、ご助言いただきました八木剛先生に厚く御礼申し上げます。

(Masahiro TSUJI 岡山県岡山市北区)